様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２３ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５３１０２４

研究課題名（和文）価値に基づいて判断し行動する力を育成する道徳教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Research on the Development of the Moral Educational Program that was based on the Sense of Values

研究代表者
鈴木　由美子（Suzuki, Yumiko）

広島大学・教育学研究科（研究院）・教授

研究者番号：４０２０６５４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,200,000円、（間接経費）　960,000円

研究成果の概要（和文）：　価値に基づいて判断し行動する力を育成する道徳教育プログラムを開発するために、１）判断基準となる価値を明確にすること、２）その価値観の発達モデルを明らかにすること、３）その価値観を育むプログラムを開発すること、を行った。１）では、「生命尊重」「思いやり」「平和」の価値が上位にあげられることを明らかにした。２）では、実践研究に基づいて「生命尊重」の価値観の発達過程モデルを作成した。３）では、「生命尊重」の価値観を軸とした道徳教育プログラム開発のための教育的示唆を示した。以上の内容についてホームページを作成し、広く公表した。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to develop a program for moral education that was based on the sense of values. To make clear this issue, three research were conducted. Firstly, to make sure the standard of the sense of values. They were mainly life respects, consideration and peace. Secondary, to make sure the developmental model of the sense of values, especially life respects. Thirdly, to develop the program that aimes to grow up the sense of value, especially life respects. The results of this research were announced on the website.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：道徳教育　道徳教育プログラム　価値教育　価値観

１．研究開始当初の背景

道徳教育は，道徳的価値を内面化すること，そして内面化された価値基準に基づいて行った行為の結果について，責任をとる人間を育成することをめざしている。道徳授業では，このうち，とくに道徳的価値の内面化を促進することが求められている。

学習指導要領(2008)には，同様の目的が書かれ，道徳的価値を獲得させることがめざされている。しかし獲得をめざすべき価値については述べられていない。それに対し，オーストラリアで実践されている価値教育(values education。以下 VE) においては，9 つの価値が明示されている。オーストラリアで示されている 9 つの価値は，子ども，教師，保護者への価値教育に関するアンケートに基づいて設定されたものである。これら 9 つの価値をすべて教える必要はない。これらはあくまで例示であり，学校や地域の特性に応じて，9 つの価値から選んでも良いし，まったく異なる価値を選んでも良い。ただし，価値に基づいて判断し行動することを教える点では一致しているのである。

オーストラリアの価値教育の視点から見たとき，「道徳的実践力」あるいは「日常化」がめざされているにもかかわらず，道徳の時間に学習した道徳的価値が実践につながらないことが，日本における道徳教育の課題のひとつとされている。この課題に対し，本研究では，オーストラリアで行われた価値に関する調査を日本でも実施し，めざすべき価値とは何かを明らかにし，それに基づいて判断し行動する子どもを育てるための道徳教育プログラムの開発を目的とした。それによって，学習した道徳的価値を実践化することが促されると考える。

２．研究の目的

本研究ではオーストラリアで行われた価値に関する調査（2003）を参考にして調査を行い，日本の子どもの道徳教育において必要とされる価値が何であるかを明らかにし，価値に基づいて判断し行動する子どもを育成するための道徳教育プログラムを開発することを目的とした。

３．研究の方法

（１）日本の子どもの道徳教育において必要とされる価値が何であるかについて，オーストリアで行われた価値に関する調査を参考にした調査を，小学生，中学生ならびに大人に対して行い，共通に上位にあげられた価値を明らかにした。まず予備調査を行って，「価値」についての質問項目を策定した。次に，策定した質問項目を含む本調査を行った。

（２）日本の小中学校で使用されている読み物教材に含まれる価値内容をオーストラリアでの VE に従って分類した。対象とした出版社は H 県で一般的に使用されているものとし，小学校９社，中学校５社とした。

（３）以上の調査結果に基づいて，基軸となる価値観に基づいた教材を開発し，それを用いた授業実践研究を行い，価値観の発達モデルを策定した。その発達モデルにしたがって道徳教育プログラムを開発するための教育的示唆を得た。

４．研究成果

（１） オーストラリアで行われた価値教育に関する調査を参考にし，日本での調査項目を作成するために価値についての予備調査を行った。対象者は，小学生 226 名，中学生 241 名，大学生 43 名，大人 23 名であった。予備調査において価値のイメージなどを自由記述で尋ねた。得られた回答を KJ 法で分類し，複数の研究者で相談して一致させた。共通して上位に選択された価値である生命尊重，家族愛，学校愛，信頼，友情，努力，お金の 7 個を，オーストラリアでの調査項目に付け加えることとした。これらの価値の内容を小学生が理解しやすいように，言葉の言い換えについて小学 6 年生と大学生に自由記述で記述させる予備調査 2 を行った。予備調査 2 の結果，小学生では正義と公正との区別ができていなかったので，正義を項目からはずし，公正を選択肢に採用した。小学生でも大人でも共通して価値の内容が理解できるように価値の説明文を作成し，調査項目につけ加えた。

本調査の対象者は，小学校 4 校 675 名，中学校 4 校 370 名，保護者 244 名，総計 1，289 名であった。手続きは，質問紙を各学校に送付し，クラスごとに集合調査法によって行った。調査者は担任だった。小学校では担任が問題文を読み上げて回答した。中学校では，生徒が自分のペースで回答した。保護者は，児童が持ち帰った調査用紙に自分のペースで回答し，学校に提出した

日本の子どもの道徳教育において必要とされる価値が何であるかについて 34 項目による選択肢調査の結果，上位 10 位以内にあげられたものを示す。小学生では選択率の高い方から平和，生命尊重，努力，友情，思いやり，幸福，家族愛，愛，責任，勇気であった。中学生では選択率の高い方から，平和，生命尊重，幸福，思いやり，努力，友情，自由，責任，信頼，愛であった。大人では，選択率の高い方から，思いやり，生命尊重，平和，幸福，愛，家族愛，分別，責任，忍耐力，努力であった。小学生，中学生および大人のいずれにおいても 10 位以内にランクされた価値は，平和，生命尊重，努力，思いやり，愛，責任，幸福であった，小学生，中学生においてのみ 10 位以内にランクされた価値は，友情，努力であった。中学生においてのみ 10 位以内にランクされた価値は信頼，自由であった。大人においてのみ 10 位以内にランクされた価値は，分別と忍耐力であった。全体

集計の結果，上位にランクされる価値は，選択率の高い方から，生命尊重，平和，思いやりであることが明らかになった(表 1 参照)。

表1　全体集計の結果

| 順位 | 価値名 | 実数(人) | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 生命尊重 | 912 | 70.8 |
| 2 | 平和 | 909 | 70.5 |
| 3 | 思いやり | 770 | 59.7 |
| 4 | 努力 | 742 | 57.6 |
| 5 | 幸福 | 713 | 55.3 |
| 6 | 友情 | 656 | 50.9 |
| 7 | 愛 | 620 | 48.1 |
| 8 | 責任 | 577 | 44.8 |
| 9 | 家族愛 | 543 | 42.1 |
| 10 | 分別 | 474 | 36.8 |
| 11 | 自由 | 470 | 36.5 |
| 12 | 忍耐力 | 464 | 36 |
| 13 | 信頼 | 447 | 34.7 |

これらの結果についてオーストラリアで行われた調査結果と比較した。

表２　日本とオーストラリアの価値の比較

| 日本 | オーストラリア |
|---|---|
| 平和 | 理解・寛容・インクリュージョン |
| 思いやり | 世話と深い思いやり |
| 愛 | |
| 家族愛 | |
| 信頼 | 誠実さと信用 |
| 友情 | |

| 日本 | オーストラリア |
|---|---|
| 努力 | 最善を尽くすこと |
| 忍耐力 | |
| 分別 | 品行方正 |
| 責任 | 責任 |
| 自由 | 自由 |

この結果をもとに，国際的に共通な価値(common values)があるのではないかとの仮説を提案した(図 1)。これにより，招待講演に招かれるなど国際学会で高い評価を得た。

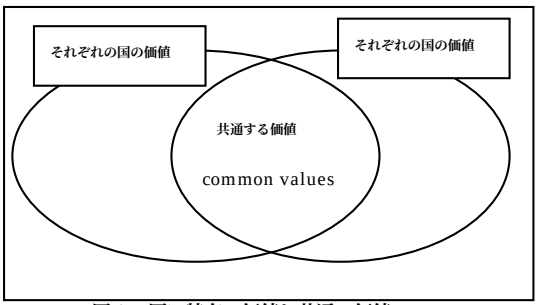


図１　国に特有の価値と共通の価値

（２）　それぞれの読み物教材に含まれている内容項目を，出版社の指示に従って書き出し，小学校，中学校それぞれについて，学年ごと，内容項目ごとの一覧表を作成した。次に，『学習指導要領解説　道徳編』の最終ページに掲載されている内容項目を，オーストラリアの価値教育における 9 つの価値を参考にして，価値項目として分類し，価値項目表を作成した。こうして作成した価値項目表にしたがって，読み物教材の内容項目を価値項目として分類した。分類した価値項目を，小学校，中学校それぞれ学年ごとに整理し，価値項目の学年ごとの割合を算出した。

対象とした読み物教材を分類した結果，小中学校で連続している価値内容は，自制，努力，礼儀正しさ，思いやり，友情（信頼），生命尊重, 家族愛, 学校愛の 8 項目であった。8 項目の中でも，その割合は，自制，礼儀正しさ，友情（信頼），家族愛などのように割合が半分近く減っているものがあり，小学校で重視されていたものが中学校で重視されなくなっているものもある。小学校から中学校までの読み物教材の中に出てくる価値項目は全部で 36 項目あり，学年があがるにつれ内容が細分化され多様化しているが，ひとつの価値項目を深化させているようには感じられない。価値観が多様化しているというよりも，多様な価値を関連づけられることなく習うことで，価値観が育成されにくくなっているのではないかということが示唆された。

表３　小中学校で連続する内容の割合

| | | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 主として自分自身に関すること | 自制 | 10.9% | 10.4% | 9.1% | 8.8% | 5.2% | 5.2% | 6.3% | 4.0% | 4.0% |
| | 努力 | 4.9% | 5.8% | 4.9% | 5.2% | 6.2% | 5.8% | 3.4% | 4.6% | 4.6% |
| 2. 主として他の人とのかかわりに関すること | 礼儀正しさ | 6.4% | 5.8% | 5.2% | 4.9% | 3.2% | 2.9% | 4.0% | 4.6% | 4.0% |
| | 思いやり | 7.5% | 7.8% | 6.8% | 6.8% | 5.5% | 5.5% | 7.4% | 6.9% | 5.7% |
| | 友情(信頼) | 6.0% | 6.5% | 8.1% | 8.1% | 5.2% | 4.9% | 4.6% | 4.0% | 3.4% |
| 3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること | 生命尊重 | 7.5% | 7.8% | 7.8% | 7.5% | 7.5% | 7.8% | 5.7% | 6.3% | 6.9% |
| 4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること | 家族愛 | 6.0% | 6.5% | 5.5% | 5.2% | 3.2% | 3.2% | 4.0% | 3.4% | 3.4% |
| | 学校愛 | 5.6% | 4.9% | 3.6% | 3.9% | 2.9% | 2.9% | 2.9% | 2.9% | 2.9% |

（３）生命尊重と義務の遂行との葛藤を超えて，人道的立場から判断を下した杉原千畝の生涯を教材として開発した。この教材を用いて, 小学校 5 年生, 6 年生と中学校 2 年生（グラフでは 8 年生と表記）を対象として，道徳の研究授業を行った。対象者は，小学校 5 年生 39 名，6 年生，38 名，中学 2 年生年生 41 名であった。これまでの研究で，小学校 5 年生ごろから第三者的視点が芽生え初め，中学校 2 年生で第三者的視点が価値観として示されるようになることが明らかになっていた。そこで本研究では，価値観が芽生え始める時期の小学校 5 年生，過渡期の 6 年生，価値観

が言葉で示されるようになる中学校 2 年生を対象とすることにした。

研究の結果，価値観獲得の過程において，「生命尊重」が「慈しみ」や「正義感」に分化していることが明らかになった。鈴木ら（2009）が明らかにしたように，日本の子どもには，誰にとっても公平な価値の獲得が難しい傾向があることが示されていた。これに対し本研究の結果は，誰にとっても公平な価値が，命の平等といった感情的側面から芽生えている可能性を示唆するものであった。ここから生命尊重を基準とした判断力を形成することの意義が新たに示唆された。

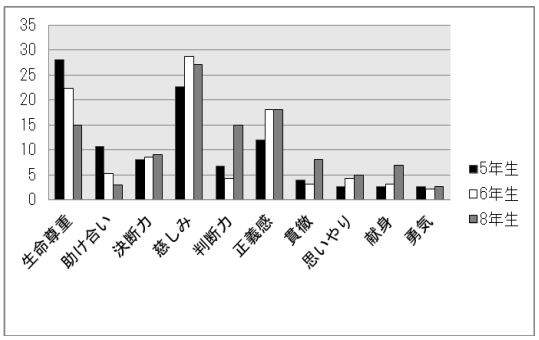


図２　記述された価値内容の変容

そこで生命尊重の価値を含んだ教材を開発し，小学校 2 年生から中学 2 年生までを対象とした授業実践研究を行って，いのち観の発達モデルを開発し，これに基づく道徳教育プログラムを開発した。

本研究では，「電池が切れるまで」の資料を用いた道徳授業を，小学校 2 年生から中学校 2 年生までの 7 学年で行い，ワークシートに書かれた児童生徒の意見を分類した。対象者は，小学校 2 年生 30 名，3 年生 34 名，4 年生，34 名，5 年生 34 名，6 年生 34 名，中学 1 年生 41 名，中学 2 年生 41 名であった。

児童生徒の意見の分類に際し，次のような手続きをとった。まずワークシートに書かれた「命を大切にするとはどういうことだと思いますか」の回答を対象とした。ひとつの意見の中に複数の内容が書かれていた場合は複数として整理した。次に，「～すること」と書かれた意見（積極的いのち観）と「～しないこと」（消極的いのち観）と書かれた意見に分類した。「～すること」と書かれた意見，「～しないこと」と書かれた意見を，類似した内容に分類し，カテゴリを作成した。カテゴリごと，学年ごとに整理して，いのち観の発達モデルを開発した。

表 4　いのち観の発達モデル

| 段階 | その時期の特徴 | いのち観 |
|---|---|---|
| 1 | 自分の心や体を守ることがいのちを大切にすることだと考える時期(7-8 歳～) | 【いのち観の根幹】 |
| 2 | 自分だけでなく相手も大切にすること，順調でなくても未来を信じてがんばることが，いのちを大切にすることだと考える時期（9-10 歳～） | 【いのち観の空間的・時間的拡大。空間と時間は狭い範囲に限定されている】 |
| 3 | 過去の体験や学習にもとづいて，自分なりのいのち観をつくる時期（11 歳ごろ） | 【いのち観の創出。主観的な範囲に限定されている】 |
| 4 | 自分なりのいのち観を周囲との関係のなかで再構成する時期 (12 歳ごろ) | 【いのち観の再構成。周囲とのすりあわせが始まる】 |
| 5 | いのち観を周囲との関係に応じて拡大する時期 (13 歳ごろ) | 【いのち観の拡大期】 |
| 6 | いのち観を原理的に構成する時期（14 歳ごろ） | 【いのち観の確立期】 |

ここから生命尊重の価値を基軸とした道徳教育プログラム開発のための教育的示唆として以下の点を明らかにした。

小学校低学年では，自分の心と体を大切にすることをしっかりと教えることが大切である。

小学校中学年では，他の人の心や体を大切にすること，いやなことがあってもあきらめないことを教えることが大切である。

小学校高学年では，5 年生と 6 年生にはそれぞれ異なった対応をすることが大切である。5 年生では，自分なりの考えをつくることを支援することが大切である。授業や体験活動において，様々な意見を出し合い，認め合う雰囲気が大切である。

6 年生では，自分なりの考えを周囲との関係において調整するよう指導することが大切である。様々な意見を出し合い，認め合う雰囲気のなかで，よりよい意見はどれか，なぜそう考えるかといった吟味を行う方法論が大切である

中学校 1 年生では，一般的には複数の学校からの進学者で構成されるので，ふたたび小学校 5 年生のときのような拡散が起こると考えられる。中学生としての自分なりの考え方を持つよう支援することが大切である。その際，それぞれの考え方を認め合い，許し合う雰囲気が大切である。

中学校 2 年生では，自分なりの考え方を，集団や社会といった広い視点からの妥当性とすりあわせ，原理的な考え方を持たせるような指導が大切である。

こうした観点に基づいた道徳教育プログラムをさらに開発していくことが今後の課題である。

## ５．主な発表論文等
**（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）**

**〔雑誌論文〕（計 5 件）**

1. Yumiko Suzuki, Method of Fostering an Awareness of the Value of Social Justice Based on Humanitarianism-Focused on Practical Morality Lessons in High Schools-, **学校教育実践学研究，19巻，査読無し，2013年，205-211**
2. Yumiko Suzuki, The Use of Froebel's "Spielgaben" in a Japanese Kindergarten to aid the Transition from Kinder-garden to Elementary School, **人間教育の探究，24巻，査読無し，2012年，102-112**
3. Yumiko Suzuki et al. Methods of Fostering the Acquisition of Moral Values: The Relationship between Ex-panding Awareness of Interpersonal Relations and Moral Judgment. Proceedings of the 67th Annual Convention International Council of Psychologists. **査読無し，2011，209-218**
4. **鈴木由美子・永瀬美帆他7名，道徳授業用の読み物教材に含まれる価値項目の分析，学習開発学研究，第4号，査読無し，2011，57-65**
5. **鈴木由美子・宮里智恵他7名，道徳的価値に気づかせるための伝記教材の開発，広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，第39号，査読無し，2011，189-194**

**〔学会発表〕（計 5 件）**

1. Yumiko Suzuki, Research on Values as Important Components of Peace Education, International Curriculum Planning Seminar- Workshop on Integrating Whole Brain Literacy and Leadership Concepts in the K to 12 Curriculum, 2013.4.28, Manila (Philippines)**（招待講演）**
2. Yumiko Suzuki, et al. Research on Values as Important Components of Peace Education, World Council for Curriculum and Instruction 15th World Conference in Education, 2012.12.31, Takao (Taiwan)
3. Yumiko Suzuki, The Use of Froebel's "Spielgaben" in a Japanese Kindergarten to aid the Transition from Kindergarten to Elementary School, The Fifth Biennial Conference of the International Froebel Society, 2012.4.13, Dublin (Ireland)**（招待講演）**
4. **森川敦子・鈴木由美子，規範性をはぐくむための教材・活動プログラムの開発と効果の検討，日本道徳教育学会第 76 回大会，2010 年 11 月 21 日，大谷大学**
5. Yumiko Suzuki, Atsuko Morikawa, Tomoe Miyasato, et al. Method of Fostering an Awareness of the Value of Social Justice Based on Humanitarianism-Focused on Practical Morality Lessons in High Schools, WCCI 14th World Conference in Education, 3rd Biennial World Conference, 2010.7.14, Pécs (Hungary)

**〔図書〕（計 2 件）**

1. **鈴木由美子・宮里智恵・森川敦子編著，子どもが変わる道徳授業，溪水社，2013，228**
2. **鈴木由美子・宮里智恵編著，やさしい道徳授業のつくり方，溪水社，2012，194**

**〔その他〕**

**ホームページ等**

http://pesfre.hiroshima-u.ac.jp/

## ６．研究組織
**(1)研究代表者**

**鈴木　由美子（SUZUKI YUMIKO）**
**広島大学・大学院教育学研究科・教授**
**研究者番号：40206545**